



花魂

散ったお花のたましいは
 み仏さまの花ぞのに
 ひとつ残らずうまれるの。
 だって、お花はやさしくて、
 おてんとさまが呼ぶときに、
 ぱっとひらいて、ほほえんで、
 蝶々にあまい蜜をやり、
 人にや句いをみなくて、
 風がおいでとよぶときに、
 やはりすなおについてゆき、
 なきがらさえも、ままごとの
 御飯になってくれるから。

花のたましい

散ったお花のたましいは、
み仏さまの花ぞのに
ひとつ残らずうまれるの。

だって、お花はやさしくて、
おてんとさまが呼ぶときに、
ぱっとひらいて、ほほえんで、
蝶々にあまい蜜をやり、
人にや句いをみなくて、

風がおいでとよぶときに、
やはりすなおについてゆき、
なきがらさえも、ままごとの
御飯になってくれるから。

出典『金子みすゞ童謡全集』
(JULA出版局)

※この度の掲載は、金子みすゞ著作保
存会の許可を得て掲載しております